

Title	日本型短期金融モデルによるタイ短期金融市場の拡張
Sub Title	
Author	スダッサナ , バーサコーン 鈴木貞彦
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1988
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1988年度経営学 第616号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0616

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	パーサコーン スダッサナ	主査 鈴木 貞彦
		副査 藤枝 省人
所属ゼミナール	鈴木 貞彦 研	関谷 章

日本型短期金融モデルによるタイ短期金融市場の拡張

本研究はタイの商業銀行における当座貸越金の問題に関する研究である。その問題は商業銀行に対するコスト問題およびコントロール問題に表れている。第1章では問題提起で、その2つの問題を説明する。当座貸越金は商業銀行の貸出の中で現在、金額が5分の3を占めている。従って各問題は多量の当座貸越金によってタイの金融市場へ危険あるいは不安定な影響を与えていた。本研究は当座貸越金の問題を解決するためにタイの短期金融市場を発展させ、顧客に向ける資金調達および資金投資の取引を拡張する案を研究する。

第2章では現在までのタイの金融市場の発展を4期を分け、短期金融市場による大蔵省および中央銀行の金融政策を証明する。そして各期の金融市場はどういうふうに形成されていくかを分析する。

そして第3章ではタイの短期金融市場を現在の時点で見て、中央銀行が認める短期金融市場の形を確認する。この章では短期金融市場の変化によって不自由化・自由化の2つの仮説をおく。仮説を決定する方法として日本の短期金融市場を検討する具体的な説明をし、日タイにおける金融市場の共通点を考える。

第4章では、日本の金融市場、特に短期金融市場の進歩を研究し、市場の自由化を判断することによって日本における金融市場を4期に分ける。金融市場の自由化程度は各期間でどういう具合に変化したかということを研究する。

第5章では、日本の金融モデルで自由化以前の金融効果および自由化以降の金融効果を検討する。そして日本の金融自由化の影響を学ぶ。この結果についてタイの金融市場が金融自由化の政策を受けた場合の、市場への予測影響を研究する。

最後にタイの短期金融市場が当座貸越金の問題を解決する方向を決定する。市場の求める方向を考え、結論を出したい。